

## 非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)についての後ろ向き観察研究

### 【背景・目的】

非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)は腸間膜の動静脈に器質的閉塞がないにもかかわらず腸管虚血ないし壊死を呈する疾患です。本邦における死亡率は約 50~80%と高く報告されていますが、診療指針に関してはいまだ一定の見解がありません。NOMI に対する臨床的関連因子を解析することは、今後の NOMI の治療における医学的情報の集積に寄与することができます。

### 【研究の概要】

【目的】非閉塞性腸間膜虚血(NOMI)症例に対する臨床的関連因子を解析し、死亡リスクや最適な治療法を明らかにする

【方法】各症例の治療前の臨床的関連因子(年齢、性別、初発症状、発症から受診までの期間、併存疾患、抗血栓薬服用の有無、米国麻酔科学会術前状態分類 ASA-PS、術前血液生化学データ、術前 SOFA スコア、術前 CT 検査所見、IVR や保存的治療の方法、手術術式など)を後方視的に解析する。また死亡例と生存退院した例に分類し、2群間の各因子に対する単変量解析・多変量解析を行う。

### 【研究対象者】

2012 年以降 2023 年 12 月までの間に、臨床的に NOMI と診断され、手術や IVR、保存的治療を施行した症例

### 【個人情報保護】

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。さらに、研究目的以外には決して使用されることはありません。なお、この研究は当院倫理委員会で承認されております。

上記の研究に登録したくない場合は、担当医または以下にご連絡ください。なお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

この研究計画についてご質問がある場合は以下までご連絡ください。

### 【研究責任者】

京都第一赤十字病院 消化器外科  
池田純(副部長)